

# Gpress

## せたがや

第33号  
2018  
4月発行

「ジープレスせたがや」  
http://www.ryo-iku.jp  
GpressのGは愛称「げんき」のGです。

### センター長の挨拶

平成29(2017)年9月から世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」のセンター長に就任いたしました蚊野秀明と申します。

平成21年に開設された「げんき」は、今年4月から10年目を迎えています。お子さまの発達の偏りなどによるさまざまな生活上の困難に対する相談・療育支援に加え、ご家族への支援や関係機関との連携を行っています。昨年度、保護者支援プログラムに参加された方からは、我が子の「自分らしさ」を受けとめられるようになりました、という感想もいただきました。世田谷区の発達障害支援の中核的拠点として、世田谷区民の期待に応えられるよう一層努力してまいります。

業務委託を受けております社会福祉法人トポスの会は、発達障害就労支援センターゆに (UNI) とその分場フェリーチェの業務も受託しており、利用者のライフステージを視野に入れて相談・支援を行っています。



### 世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

#### 開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)  
午前9時～午後6時

#### 利用方法

世田谷区在住の方を対象としています。  
相談・療育をご希望される場合は、まず、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」にお電話ください。

TEL 03-5727-2236 (相談専用)

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18  
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3階  
TEL 03-5727-2235 (代表)  
FAX 03-5727-2238  
URL <http://www.ryo-iku.jp>

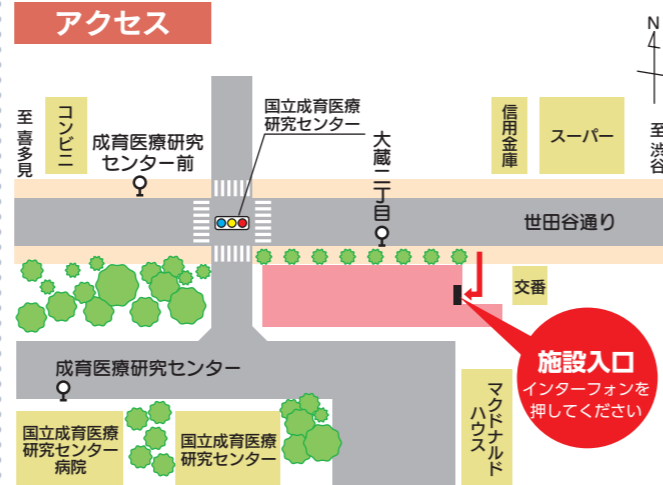
業務受託：社会福祉法人 トポスの会

〒123-0844 足立区興野2-18-12  
TEL 03-5837-4830 FAX 03-3890-8121

#### 編集後記

4月になり、新しい友だちや、新しい先生との出会いにお子さんや保護者の方も期待に胸をふくらませていることと思います。「子どものミカタ・発達のミカタ」シリーズも今回が3回目です。子どもたちは、失敗経験の中からこそ、多くのことを学び、周囲に励まされながら成功する経験を通して成長していきます。そんな時、子どもたちの「身近にいる信頼できる大人」の存在はとても大きいです。げんきの職員もそんな存在でありたいと考えております。

#### アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

#### 東急バス・小田急バス

〔渋24〕 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅

#### 東急バス

〔都立01〕 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口

〔等12〕 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所

〔用06〕 成城学園前駅 ↔ 用賀駅

#### 小田急バス

〔渋26〕 調布駅南口 ↔ 渋谷駅

#### 東急コーチ

〔玉31・32〕

二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。東急コーチ、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。  
※専用駐車場はありません。

### 第3回 子どものミカタ・発達のミカタ

子どもたちは、「人と関わりたい」「こんな活動をしたい」といったさまざまな思いを持っています。

私たちはその気持ちを育むために、このようなことをめざして関わっています。

- 失敗しても再チャレンジする力をつける
- 困ったときに助言をもらえる人がいる
- 安心できる人がそばにいる
- 楽しめる活動を増やす

今号では、「成功体験をしっかり積む」、「失敗に寄り添ってくれる人がいる」を取り上げ、エピソードを交えて中面にてご紹介いたします。

- 成功体験をしっかり積む
- 失敗に寄り添ってくれる人がいる

「げんき」では、発達障害に関する全般的なご相談をお受けしています。

まずはお電話ください

03-5727-2236 (「げんき」相談専用番号)

# 子どものミカタ・発達のミカタ

「げんき」では、相談・療育に加え、地域支援や保護者支援などを通じて、周囲の人々が子どもの味方となるよう子どもの見方・発達の見方をご紹介します。

## 成功体験をしっかりと積む

年中のAくんは、絵を描いたり、はさみで工作するのが苦手です。おかあさんが、絵を描くように促しても、「ボク、できない」と泣いてしまうこともしばしばあります。



そんな時、園の先生が、Aくんの取り組みそうなことを聞きとりながら、Aくんを手伝いお絵描きをしました。そして、完成した絵を見て、Aくんは「ママにプレゼントしたい」と喜んでいました。おかあさんも、そんなAくんの様子を見て大喜びでした。



お家に帰ってから、おかあさんは、「パパにも見てもらおう」と、リビングの壁にAくんの絵を飾りました。会社から帰ってきたお父さんは、Aくんの絵を見て「よくがんばったね」と誉めてくれました。Aくんはお父さんにも誉められて大満足です。



それから、おかあさんは、先生と同じように手伝いながらAくんとお家でも絵を描くようにしてみました。今では、Aくんは一人で絵を描いて遊ぶときもあります。



子育てに関して、「成功体験を積み重ねる」とはよく言われるテーマです。成功を体験することで達成感や効力感を得られ、より活動に取り組むようになります。「好きこそものの上手なれ」とも言いますが、「好きになる」→「楽しく取り組む」→「成功する」→「さらに好きになる」といった好ましいサイクルが成功を体験することで生じるようになります。

また、活動を自身の力で完成、完結させる力をつけることは、子どもの将来にとっても大切なことです。失敗したままでは、何が完成か、どうすれば完結するのかを学ぶことはできません。援助や支援を得ながらも成功することで学べるものがあるのです。

例えば、お片づけを1～10の工程に分け、1～9までお手伝いをして、最後の10を子どもにやらせることで「できた」という成功を体験することができます。こうした小さなことの積み重ねが大切なかもしれません。

解説

## 失敗に寄り添ってくれる人がいる

中学生のBくんは、楽しくなると、しばしばお調子者になってしまいます。その日も、合唱コンクールの練習中に、友達とついふざけすぎてしまいました。



クラスメイト数人から「練習の邪魔をしている」と言われ、Bくんは自分の言動が周りに迷惑であったことに気が付きました。しかし、素直に非を認められず、対立してしまいました。Bくんはクラスでの居心地が悪くなり、学校に遅刻することが増えていきました。



そんな中でも遊び仲間のCくんは、それまで同様に一緒に過ごしてくれました。「お前頑固だよな、俺ならさっさと謝っちゃうのに」とCくんが何の気なしに話したことに、Bくんははっとしました。また、Bくんの様子を心配した担任の先生が「君が謝りたいと思うのなら協力するよ」と言ってくれ、Bくんはクラスみんなに謝ることに決めました。



Bくんは、この春から高校生になります。「あの時Cくんや先生と話し、失敗してもそれを修復する方法があることに気が付くことができた。」とBくんは話してくれました。Bくんにとって貴重な体験になったようです。



人が生きていく中で、失敗してしまうことがあります。そんなときに寄り添ってくれる人がいるというのは大切なことです。失敗、つまり予想外で望ましくない異常事態に対し、普段と変わらず安定した関係でいられる人がいることで、混乱し苦悩している状態からより早く脱し、失敗を成長の糧にすることができます。

今回の例では、友達や担任の先生がやさしく寄り添って来ていました。それ以外にも、ご家族や相談機関の支援者、そして地域の方など、ご本人にとって「この人には失敗を話せる」「いつも変わらずに受け止めてくれる人だ」と感じられる方であれば、どなたでも支えになることができます。成功のため工夫や努力を促すことも大切ですが、気負いなく、継続的に、そして時にはバトンタッチしながら失敗に寄り添うことも支援の重要な側面と言えます。

解説